

朝日大学は、国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間的知性に富む人間の育成をめざします。

2012オープンキャンパス開かれる

高校生の夏休み期間を中心に、大学進学を志望する受験生やその保護者等を対象とした「オープンキャンパス」が開催された。

参加した高校生たちは、模擬授業・裁判、体験実習、ランチバイキングなどを体験し、「1日大学生」を充分に満喫した。
発信し続ける朝日大学の“今”を体感してほしい。



HOT TOPICS



オープンキャンパスで朝日大学を体感

模擬授業・裁判で1日大学生

法学部(法学科)、経営学部(経営学科・経営情報学科・ビジネス企画学科)の志願者を対象とした「オープンキャンパス」が7~8月に穗積キャンパスで開催された。

県内外からは多くの高校生や保護者らが来学し、映像による大学紹介、模擬授業、入試・奨学金説明会、キャンパス見学、ランチバイキングなどに参加、大いに「朝日大学」を体感した。



模擬法廷で裁判を実体験

模擬授業では、高校生にも関心のある「もし自転車で人身事故を起こしてしまったら!」、「魔法の言葉で力がグーンとUP」など身近なテーマに参加者たちは目を輝かせていた。また、地元テレビでも紹介された大好評のランチバイキング

では、学生スタッフや教員との会話もはずみ、「大学生活をエンジョイする方法」などの話題に花が咲いていた。

さらに、「裁判員制度」の導入を受け改修された模擬法廷では実際に裁判員席に着席し模擬裁判で評決を下したり、英語リッシュランゲージサロン(ELS)では外国人教員との英会話を楽しむなど、朝日大学の特色や魅力をより理解・体感できる「オープンキャンパス」となった。



ELSで英会話を楽しく学ぶ



ランチバイキングで学生・教員と交流

未来の歯科医師を目指す



顕微鏡を使って実習体験

参加した高校生たちは、最新鋭の機器を備えた臨床系実習室、附属病院、図書館などを見学。模擬実習が行われたシミュレーション実習室では、参加者が患者型マネキンで実際に虫歯に見立てた模型の歯を削り「歯科医療」の現場を「ワクワク、ドキドキ」しながら実体験した。

未来の歯科医師たちは、朝日大学の歯学教育を体験し、歯科医師をめざす気持ちがより強くなったようであった。



「患者型マネキン」ではじめての歯科治療

市民相談室



相談内容

- ▶ 法律・経営に関すること
- ▶ 歯や体の健康に関すること
- ▶ 入試に関すること

朝日大学では、地域の皆様との交流を深めるとともに、大学で行っている教育や研究の成果を皆様の生活に役立てていただけるよう、市民相談室を開設しています。それぞれの分野について専門の教職員が皆様からのご相談をお受けし、解決に向けてアドバイスをさせていただきます。

予約制

相談は電話による予約制です

予約受付時間／月～金9:00～17:00 土9:00～13:00

法律・経営・健康相談

入試相談

TEL 058-329-1199

0120-058327

E-mail:soudan@alice.asahi-u.ac.jp

E-mail:nyushi@alice.asahi-u.ac.jp

秘
密
厳
守

経営学科「会計コース」を充実

岐阜県高等学校商業校長会との「商業教育連携・推進」協定締結(2011年7月)に基づき、経営学部経営学科では、会計のスペシャリスト育成をめざす「会計コース」が設置され本年4月にスタートした。

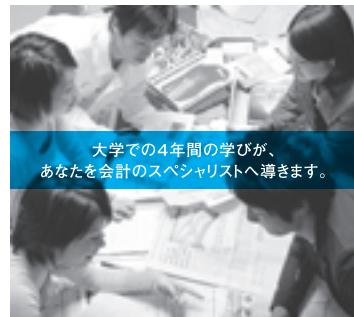
会計スペシャリストの育成

同コースでは、日商簿記検定1級合格や税理士など将来の目標に応じた教育プランを設定し、高度な専門教育と現役税理士・公認会計士によるきめ細かな指導を取り入れることで、将来、会計の領域で幅広く活躍できるスペシャリスト(人材)の育成を行う。また、「会計コース」充実に併せて、だれもが同じスタートラインに立てるよう「会計コース特別奨学金制度」が新設されると共に、5年連続95.0%以上という高い就職実績に裏付けされた万全な就職支援により、実社会への旅立ちを完全サポートする体制が整えられた。

「会計コース」学びのポイント

- 「樂市樂座」発祥の地、商業の街・岐阜で高度な会計教育を実現
- 現役税理士・公認会計士による「きめ細かな指導体制」を確立
- カリキュラムの中で「資格取得」に向けた授業科目を学ぶ
- 繰り返しによる答練と特別講座で「将来の目標」をめざす

※詳細については、ホームページ、リーフレット、学生募集要項などをご覧ください。



ジュニア・ロースクール開講

穂積キャンパス6号館模擬法廷で、中学生を対象とした「ジュニア・ロースクール」が開講された。

裁判員制度の実施に伴い、国民の司法参加が必須となった今日において、一般市民に対する法教育、さらには、若年層に対する学校での法教育が益々重要性を増している。

ジュニア・ロースクールは、岐阜県弁護士会、法学部を有する朝日大学、岐阜県内外に多数の教員を輩出している岐阜大学、そして、県内学校の法教育推進を目的として設立された岐阜法教育研究会が連携し、中学生の夏休み体験学習の一つとして毎年開講しているものである。

模擬法廷で裁判を体験!

模擬法廷に集まった50名を越える中学生たちは、初めて体験する裁判(模擬法廷)の様子に少し緊張ぎみの様子。しかし、そこは度胸のすわった中学生たち、「裁判とはいっていいなんなの?」、「裁判官・検察官・弁護士は何をしているの?」などの疑問を解決しようと熱心に受講していた。



中学生たちが「模擬法廷」で裁判制度を学ぶ

歯学部海外研修を実施



大友学長から壮行の言葉を受ける学生たち

歯学部では、国際的な視野を持ち幅広く活躍できる歯科医師を育成するために、毎年夏季休業期間等を利用して「短期海外研修」を実施している。5年生を対象とした海外研修の費用は全額大学が負担しており、学生にとっては、国際交流を深め海外の医療の現場を知る絶好の機会といえる。

穂積キャンパス6号館食堂では、研修に参加する学生の壮行会が行われ、大友克之学長、田村康夫歯学部長、藤原周歯学部国際交流委員長ほか、引率教員ら関係者が出席した。

今回海外研修に参加する学生たちは、研修先での各種研修プログラムに思いをはせ、期待に胸を膨らませると共に、それぞれの意気込みを英語、スペイン語、中国語などの研修先の言語で堂々と発表していた。

海外4カ国7大学へ派遣

2012年度の歯学部短期海外研修は4カ国7大学でそれぞれ行われ、8月末までに全て終了、将来の歯科医師たちにとって実り多い海外研修となったようである。		フィンランド	トルクル大学	2名
		中 国	北京大学口腔医学院 第四軍医大学	5名
		アメリカ	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 テキサス大学サンアントニオ校	5名
		メキシコ	アラバマ大学バーミングハム校 メキシコ州立自治大学	5名

フィンランドから歯学部学生を受け入れ

本学と文化学術交流協定を締結し学生・教員の相互交流を行っているフィンランドのトルクル大学歯学部の学生たちが、本学歯学部での短期海外研修のため来日した。

一行は、はじめに穂積キャンパスで藤原周歯学部国際交流委員長から「日本の歯学教育や食文化」の講義を受講。続いて講義や実習を見学、歯学部教員の指導のもと、シミュレーション実習を体験し本学での充実した海外研修プログラムに取り組んだ。

小学校で児童と交流

キャンパスでの研修を終えた一行は、瑞穂市内の穂積小学校を訪問。同校が取り組んでいる歯科保健活動(フッ化物洗口)を見学し、教室で児童たちとの交流を深めた。



修了式に臨んだ学生たちは、大友克之学長、田村康夫歯学部長から修了証書が授与され、本学での充実した短期研修を終えた。

修了式を終え記念撮影

TOPICS



「優秀発表賞」を受賞

「第8回アジア小児歯科学会(インドネシア・バリ)」において、大学院歯学研究科(小児歯科学)倉橋実里さんの研究発表が「優秀発表賞」を受賞した。

14カ国500名の参加があった本学会では、一般演題・特別演題合わせて120題が発表され、倉橋さんの研究発表は厳正な審査を経て「優秀発表賞(受賞数6題)」の一つに選ばれた。

今回の受賞は、小児歯科学研究室が研究を行っている「老化促進モデルマウスを用い、歯の喪失が全身に及ぼす影響の検証」が高く評価されたものである。

「優秀発表賞」の受賞は、「デンツプライ賞(2010年)」、「Pediatric Dental Journal優秀論文賞受賞(2011・12年)」に続く快挙であり、今後さらなる活躍が期待される。



「法と社会生活」「社会と生活基礎」で多彩な講義

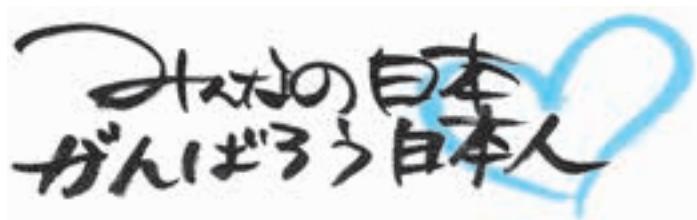


体育会指導者が「礼節」を語る
内外の講師による多彩な講義が展開され、学生たちはメモをとり真剣な面持ちで講義に取り組んでいた。

「法と社会生活」(法学部1年)と「社会と生活基礎」(経営学部1年)の授業では、多彩な講義が展開されている。いずれの授業科目も大学生活を送る上で、また、実社会に旅立つ際に身につけておくべき知識を中心に学ぶ授業。

本年度の同授業科目では、学内外の講師による多彩な講義が展開され、学生たちはメモをとり真剣な面持ちで講義に取り組んでいた。

講義内容	講師
警察の実務と犯罪防止	岐阜県警察本部警察指導官 佐合 龍也 氏
緊急時における救命救急法	岐阜市消防本部穂積消防署 署員
日本を取り巻く現状と未来	大友 克之 学長
「礼節」を身につける	体育会ラグビー部 吉川 充 監督 体育会フェンシング部 井上 裕二 監督



災害時の大学の役割とは

他大学の取り組みを学ぶ

穂積キャンパス6号館大講義室で、「第12回FD・SD研修会」が開催された。本学の教職員、地方自治体や他大学の防災担当者ら約300名が、東北大震災で実際に被災し、震災直後から地域復興の中核的な役割を担っている宮城県石巻専修大学学長の坂田隆氏の講演を受講した。



石巻専修大学の坂田学長が災害時の大学の役割を語る

地域と一体で復興をめざす

同講演で坂田学長は、大震災発生直後、キャンパス内に避難所を設け被災者を受け入れ、グラウンドをヘリポートとして活用、校舎は仮設診察所・ボランティアセンターなどとして提供した実例を紹介。また、復興に向けた産学官連携の取り組みとして、津波による災害発生状況の調査、沿岸部の復元立体3D模型の制作、水産業・水産加工業の支援対策などを解説し、「大学と地域社会とは運命共同体、地域と一緒に復興をめざす」と語った。

日頃から防災に対し「近隣の市町村、ボランティア団体や大学などと連携し、関係を深めておくことが重要である」ことを受講者が実感した講演会(研修会)となった。

FD [faculty development]

教員の教育能力を高めるための実践的手法

SD [staff development]

職員の意識改革、能力開発の実践的手法

三重大学との連携協議会

朝日大学と三重大学は、教育水準の向上や地域社会への貢献を目的として「包括連携協定」を締結(2010年2月)し、人材交流や共同研究を行っている。

地域貢献と大学間連携

今回、両大学の学長・副学長、各学部長、事務局長等による第3回連携協議会が三重大学環境・情報科学館(津市)で開催された。協議会では、公開講座やシンポジウムにおける講師の相互派遣、医科と歯科との共同研究の推進、大規模災害における相互支援の仕組みなどについて協議が行われた。



森下伊三男副学長が本学を代表し挨拶

また、引き続き開催された懇談会では、大学や附属病院の運営及び経営に関する情報交換、東日本大震災の復興支援に向けた継続的な取り組みについての意見交換なども活発に行われた。

「防犯表彰」を受ける

法学部学生を中心に組織する「防犯ボランティア団体めぐる」は、これまでの活動実績が評価され、防犯功労団体として表彰を受けた。

瑞穂市総合センターで開催された「瑞穂・本巣・北方地区防犯協会総会」では、本年度の地域防犯活動事業計画が話し合われると共に、これまで地域の防犯活動に取り組んできた6団体と個人を「防犯功労表彰」することが決まった。

表彰を受けた「防犯ボランティア団体めぐる」は、これまでに岐阜県警北方署や瑞穂市との連携をはかり、小学校での防犯教室をはじめとし様々な防犯街頭啓発活動を展開、地域社会に貢献している。

オープンスクール開講



岐阜県立八百津高等学校のオープンスクールが穂積キャンパスで開講された。朝日大学のスクールバスで到着した同校の生徒たちは、6号館講義室に入室し、斎藤康輝教授（法学部）と田村明教授（ビジネス企画学科）から「オープンスクール形式」の授業を緊張した様子で受講した。

緊張した様子で大学の講義を受講



授業では、「生存権とはなにか」をテーマに日本国憲法第25条の意味を考えたり、「消費者の深層心理を探る」をテーマにヒット商品を生むメーカーの努力などについて学んだ。高校生たちはその後、映像で学生生活の様子を視聴したり、学食でのランチや大学施設を見学したりと「一日大学生」を体験した。

朝日大学では、今後も広く「知の拠点」として、高大連携をはじめとし地域社会に開かれた大学をめざしていく。

夏期就職セミナー

岐阜都ホテル（岐阜市）で「朝日大学夏期就職セミナー」が開催された。

このセミナーは、「朝日大学学生を採用したい」との申し込みがあった企業を招いて行う本学独自の就職説明会で、企業と学生にとって就業マッチングのための最高の場となっている。

今回全国から36社が参加、夏季休暇中にもかかわらずリクルートスース姿の約100名の4年生が来春卒業後の活躍の場を求め企業ブースに足を運び、採用担当者と対面した。

学生の高い意欲や熱意

本学主催の就職セミナーは、今回が第四弾。セミナー終了後の企業担当者からは、参加学生の意欲や熱意の高さに注目が集まり、入学当初から取り組んできた就職支援活動に対する成果が大いに感じられた就職セミナーとなつた。



NEWS

「沖縄の声を聞く」

元沖縄県知事・参議院議員で、現在、大田平和総合研究所を主宰する大田昌秀氏の特別講演が、穂積キャンパス6号館大講義室で開催された。

学生のキャリア形成を目的とする講座「企業と人材2012」の一環として、そして、多くの沖縄県出身学生と本土の学生や教職員が相互理解を深めるために開催された同講演には、学生・教職員ら約650名が出席し、「沖縄戦、そして戦後の沖縄、平和とは」の講演に熱心に耳を傾けた。

沖縄県祖国復帰40周年を迎えるにあたり、「沖縄戦が残したもの、沖縄の戦後の歩み、沖縄の今と未来」と題した講演を通じて大田氏は、「基地問題に無関心な本土の人たちと沖縄県民との心理的な溝は深まるばかり。一人でも多くの人に沖縄の問題に関心を持ってもらいたい。そして、本当の平和を考えてもらいたい」と語った。



「本当の平和を考えてもらいたい」と語った大田氏

ジャーナリストが沖縄を語る

また、「沖縄密約事件（外務省機密漏洩事件）」の当事者であり、山崎豊子原作のドラマ『運命の人』のモデルとなった元毎日新聞記者でジャーナリストの西山太吉氏を講師に迎えた特別講演が5号館講義室で開催され、約300名の学生・教職員が聴講した。

西山氏は「沖縄の未来のために」と題した講演で、沖縄返還問題を巡る日米関係と日本外交について自身の経験をまじえて語ると共に、「日本という国家がどうあるべきか、それぞれが関心をもってもらいたい」と訴えた。

なお、本学では、現在約150名の沖縄県出身学生が、来るべき国際未来社会に旅立つために勉学やスポーツ活動に取り組んでいる。



西山氏は「国家のあり方に関心を」と訴えた

SPORTS

ボウリング 国際大会で銀メダル!

体育会ボウリングチーム(Blue Flash)の安里秀策選手(ビジネス企画3年:沖縄)と竹川ひかる選手(ビジネス企画3年:岡山)は、共に日本代表として出場した「第12回ユースボウリング選手権大会(タイ・バンコク)」において、「準優勝」の輝かしい競技成績を収めた。

国際大会の大舞台で安里選手は、日本人選手として16年ぶりとなる男子シングルスでの「銀メダル」を、また女子ダブルスに出場した竹川選手は、優勝は逃がすものの堂々の「銀メダル」を獲得した。

両選手は、これまで国内最高峰の大会である「NHK杯全日本選抜選手権」を制すなどコンスタントに好成績を収めており、今秋開催の「ぎふ清流国体」や国際大会でのさらなる活躍が期待される。



岐阜グランドボウル
(ぎふ清流国体開催会場)で
練習する竹川選手

ラグビー 東海リーグ連覇に 向けて好発進

体育会ラグビー部は、穂積キャンパスラグビー場で開催された「第17回ギフセブンズ大会」に出場し、みごと優勝に輝いた。

熱戦が繰り広げられる

「ギフセブンズ」は7人制のラグビー大会で、今大会には7チームが出場し予選リーグ戦と決勝トーナメント戦で覇を競った。本学ラグビー部は予選リーグで岐阜県警チーム・自衛隊チームと対戦、圧倒的な攻撃力で勝利。熱戦が繰り広げられた決勝戦は朝日大学チーム同士の対戦となり、朝日大学Aチームが31対14のスコアでBチームに勝利し、みごと優勝を果たした。

昨シーズン東海リーグ連覇を成し遂げたラグビー部、リーグ3連覇に向けて好発進となった「ギフセブンズ大会」であった。

自転車競技

西日本インカレ「7連覇」達成

岸和田競輪場(大阪府)で行われた「第48回西日本大学対抗選手権大会」において、体育会自転車競技部は、1kmTT、スプリント、スクラッチレース、タンデムSP、3kmIP、チームSP(男・女)の7種目で優勝を収め圧倒的な強さを發揮。西日本インカレの「総合優勝」を果たすと共に、この大会7連覇の栄冠に輝いた。

学生チャンピオンを輩出

また、先に開催された「第53回全日本学生選手権大会(宮城県大和町)」では、スクラッチレースで角優介選手(ビジネス企画2年:青森)、タンデムSPで松本諒太・渡邊浩幸選手ペア(共にビジネス企画:三重・岐阜)が学生チャンピオンに輝くと共に、4kmIP、スプリント、1kmTTなどの各競技において7つの入賞を果たし、朝日大学の競技力の高さを發揮した。



スクラッチレース優勝の角優介選手

山岳競技

「ジャパンカップ」で入賞!

強化指定選手として体育会に所属する山岳競技の水口僚選手(ビジネス企画1年:岐阜)は、岐阜市特設山岳競技場で開催された「第26回リード・ジャパンカップ岐阜大会」(ぎふ清流国体リハーサル大会)において、「リード女子の部」で「第5位」に入賞した。



「リード」人工壁を登る高さを競う競技

水口選手は、アメリカでのワールドカップ遠征から帰国後、体調不良で練習不足のまま同大会へ出場。しかし、昨年同大会17位に甘んじた悔しさをバネに、持ち前の柔軟性や手の長さを生かし難コースに果敢に挑み、みごと入賞を果たした。

高校時代「JOCジュニアオリンピック」優勝や「アジア・ユース大会」準優勝など輝かしい戦績を有する水口選手の、「ぎふ清流国体」成年女子エースとして、また、国際大会でのさらなる活躍が望まれる。

ホッケー

「東海学生選手権」制覇

岐阜県グリーンスタジアム(各務原市)で開催された「2012東海学生ホッケー選手権大会」において、体育会ホッケー部は、決勝戦で東海学院大学を破りみごと「優勝」に輝いた。今後、ホッケー部は「全日本大学ホッケー選手権」への出場が予定されている。

CLOSE UP**会計研究 全国大会初出場で優勝!**

本年4月に創部した会計研究部は、6月3日(日)に開催された「TAC簿記チャンピオン大会」に出場。創部わずか2カ月で全国制覇(団体の部1級)の偉業を成し遂げた。

全国の大学、専門学校や高等学校が出場した同大会では、団体の部(1級)でAチームが堂々の優勝に輝き、Bチームが5位と健闘、また、個人の部(1級)では、遠藤克将さん(経営1年・岐阜)と立尾比登未さん(同1年・岐阜)が準優勝、吉井洸平さん(同1年・岐阜)が6位と好成績を収めた。

**さらなる努力を**

全国大会を制した会計

研究部のメンバーは、緊張 大友学長に「優勝」を報告

した面持ちで大友克之学長に優勝を報告。今後は、「税理士試験」や「公認会計士試験(短答式)」の合格をめざし、気持ちを新たにさらなる努力を続けていく旨のたのもしい抱負を語った。

ラフティングを体験

経営学部ビジネス企画学科では、学外研修の一環として鵜飼で有名な長良川上流で「ラフティング」を実施した。

「ラフティング」とは、チームでボートに乗り急流など変化に富んだ河川を下るスポーツで、まさに「チームワーク」が不可欠な競技である。

**チームワークの大切さ学ぶ**

今回の研修は、ラフティングを通じてチームワークの重要性を体感、組織による共同作業を疑似体験することにより、学生間のコミュニケーション能力の向上に役立てようとした企画された学外研修であった。

ライフジャケットを装着した学生たちは、激流をチームワークで無事乗り越え、緩流では全員でオールを一心に漕いだりし、今回のラフティング体験でこれまで以上に連帯感を深めたようであった。

スリル満点のラフティングを体験

朝日祭告知!! 盛りだくさんのイベントを予定

「第42回朝日祭」が盛大に開催されます。
皆様お誘い合わせのうえ、ご来場ください。

期 日 2012年 10/19(金)・20(土)・21(日)

テマ 「互知」たがいに知ろう

催 し エイサー演舞、芸人ライブ、模擬店、bingo大会、
(予定) 石破茂代議士講演会、エコキャンペーンなど



エイサー演舞で盛り上がった昨年の朝日祭の様子

**スポーツフェスティバル開催**

体育会が、穂積キャンパス体育館で「スポーツフェスティバル2012」を開催。あいにくの雨模様の中、地元の小・中学生や保護者ら約160名が参加し大学生らとのスポーツを楽しんだ。

今回で3回目の開催となった同フェスティバルは、全学をあげスポーツ活動を支援している朝日大学が、地域貢献活動として今秋開催の「ぎふ清流国体」に向け機運を盛り上げようと開いたスポーツイベント。

子供たちとスポーツ体験

体育会所属のラグビー、フェンシング、硬式テニス、ハンドボールの部員や防犯ボランティア団体めぐるのメンバーらが指導者となり、遊びの要素を取り入れた競技体験コーナーや紙芝居コーナーを運営。午後には部員たちによるフェンシングやハンドボールのミニ試合が行われ迫力あるプレーやユニフォーム姿に子供たちは歓声を上げ目を輝かせていた。



レクレーションを楽しむ子供たち

野球**東海大学野球で準優勝**

体育会硬式野球部は、岐阜・三重・静岡の19大学が出場した「東海地区チャンピオンシップトーナメント」において「準優勝」に輝いた。野球部は準々決勝・準決勝で静岡産業大学や四日市大学にコールド勝ちを收めるものの、決勝戦では、惜しくも鈴鹿国際大学に敗れ、優勝を逃した。神宮出場をめざす「秋季東海学生リーグ」での巻き返しが期待される。

STUDY



岡本道雄 理事 逝去



(学)朝日大学理事の岡本道雄先生[京都大学名誉教授、(財)日独文化研究所所長]が7月24日(火)に98歳の生涯を閉じられた。

先生は、1941年京都帝国大学医学部(現京都大学)を卒業後、京都大学総長、厚生省医道審議会会長、臨時教育審議会会長等を歴任、1984

年本法人の理事に就任され、長年にわたり本学の発展に尽力された。

また、2010年「朝日大学40周年記念公開講座」では、「人間と心」と題し、「大学教育の未来、そして、人類の未来」について語っていただいた。

岡本先生の多大なる功績を偲びつつ、衷心より追悼の意を表します。

特別支援学校でボランティア

教員免許状取得をめざし教職課程センターで学ぶ学生たちが、岐阜県立長良特別支援学校の「ふれあいの日」のイベントに参加し、学生サポーターとしてボランティア活動を行った。

学生たちは、軽スポーツコーナーで障害のある生徒たちとふれあったり、模擬店バザーで団子をつくり販売したりと、地域住民や子供たちとの交流を深めた。

ボランティアに参加した学生たちは、「子供たちは素直でかわいい。本当に“ふれあいの日”を楽しんでいるのが表情から伝わり、うれしかった。教員をめざす気持ちがさらに強くなった」などの感想が聞かれた。彼らたちが、将来、教育現場で活躍する姿が思い描ける一日であった。



岐阜県立長良特別支援学校でボランティア活動

学生補導講演会を開催

学生部では、岐阜県警北方警察署の協力を得て「犯罪に巻き込まれないようにー薬物犯罪等に手を染めないよう自己防衛をー」と題し、穂積キャンパス6号館大講義室において「学生補導講演会」を開催した。



北方署生活安全課長の講話

講演会では、はじめに大野正博学生副部長の挨拶があり、その後、昨今多発している薬物、銃器、ストーカー、悪徳商法等の各種犯罪に本学学生が巻き込まれないようにと「各自の自己防衛のための意識高揚」につながる講話やビデオ上映が行われた。学生、教職員約300名の受講者たちはメモをとりつつ熱心に講師の話に耳を傾けていた。

北方署生活安全課長による講話

「熱中症対策講話」を受講

「熱中症対策講話」が学生部主催の行事として穂積キャンパス5号館講義室で行われ、各クラスの学生や教職員ら約50名が受講した。

本講話は、この時期「熱中症」による事故が多数報告されていであることから、運動中、課外活動中 「熱中症の危険性」を学んだの「熱中症の危険性」について、学生や教職員が十分認識を高めることを目的に開催された。



講師を務めた大塚製薬(株)の加藤公敏氏からは、「熱中症」の発生要因とその対処法について分かりやすく講話がなされると共に、実際に身近なスポーツドリンクを利用した補給法が示された。参加した学生・教職員は、「熱中症」を身近な問題として捉え、みな真剣な眼差しで受講していた。

岐阜県英語教育研究セミナー

朝日大学では、建学の精神に謳う「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして人類普遍の人間的知性に富む人間の育成」の理念のもと、岐阜県下の高等学校との高大連携をはかり英語教育技術の向上及び英語教育の継続性を保持するため、「第4回岐阜県英語教育研究セミナー」を「第28回高等学校英語弁論大会」と共に開催する。

日 時／2012年11月11日(日) 10:00～11:30

会 場／朝日大学(穂積キャンパス内)

講 師／アーサー・ビナード 氏(詩人)

演 題／「亞米利加ニモ負ケズ」

第28回高等学校英語弁論大会

主 催 朝日大学

後 援 岐阜県教育委員会、瑞穂市、岐阜市、中日新聞社、NHK岐阜放送局

日 時 2012年11月11日(日) 13:00開会

会 場 朝日大学(穂積キャンパス内)

応募資格 日本国内の高等学校に在学している生徒(ただし、英語を第一言語としない者)

論 題 自由(発表時間5分以内厳守)
個性的・独自性のある内容や表現を求む

締 切 2012年10月1日(月)必着

〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851
提出及び
問い合わせ先 朝日大学 学生支援課内 英語弁論大会実行委員会
TEL 058-329-1083 FAX 058-329-1084
E-mail:gakusei@alice.asahi-u.ac.jp

表 彰 等 最優秀賞、優秀賞、奨励賞、中日賞、岐阜県教育委員会賞、
瑞穂市長賞、岐阜市長賞、参加賞、応募記念

入試情報 応募者は2013年度AO入試(社会・文化活動)の出願条件に該当する者として認定します
詳しくは朝日大学入試広報室まで
TEL 0120-058-327 FAX 058-329-1089